

平成22年3月期 決算短信

上場会社名 株式会社 ケー・エフ・シー

平成22年5月12日 上場取引所 大

コード番号 3420 URL http://ww

URL http://www.kfc-net.co.jp/

代表者 (役職名)代表取締役社長 問合せ先責任者(役職名)執行役員経理部長 定時株主総会開催予定日 平成22年6月18日

(氏名)堀口康郎 配当支払開始予定日

(氏名) 村上俊介

TEL 06-6363-4188

平成22年6月21日

有価証券報告書提出予定日 平成22年6月21日

(百万円未満切捨て)

1. 22年3月期の連結業績(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上?	高	営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期	29,921	30.8	1,888	93.0	1,791	99.1	969	110.1
21年3月期	22,878	5.0	978	65.9	899	95.4	461	51.5

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利 益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
22年3月期	145.36	_	17.2	8.0	6.3
21年3月期	69.86	_	9.6	4.6	4.3

(参考) 持分法投資損益

22年3月期 —百万円

21年3月期 —百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円 銭	
22年3月期	23,590	6,304	26.7	855.21	
21年3月期	21,120	5,088	23.4	748.80	

(参考) 自己資本

22年3月期 6,304百万円

21年3月期 4.945百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
22年3月期	3,600	△263	△1,490	5,424
21年3月期	904	△74	410	3,577

2. 配当の状況

		1株当たり配当金						純資産配当
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	(合計)	(連結)	率(連結)
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
21年3月期	_	_	_	15.00	15.00	99	21.5	2.1
22年3月期	_	_	_	20.00	20.00	147	13.8	2.5
23年3月期 (予想)	_	_	_	15.00	15.00		18.4	

(注)22年3月期期末配当金の内訳

記念配当 5円00銭

3. 23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

		(冷気がる造物はお前数におど口・効と相楽にが同じの前・ドロー・効・自然中								
	売上	高	営業和	山益	経常和	刊益	当期純	利益	1株当たり当期 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期 連結累計期間	10,350	△17.4	335	△56.7	305	△57.6	130	△67.9	17.63	
通期	23,700	△20.8	1,260	△33.3	1,180	△34.1	600	△38.1	81.38	

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 一社 (社名 除外 —社 (社名)

(2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変 更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

22年3月期 7,378,050株

21年3月期 7,378,050株

② 期末自己株式数

22年3月期 5,615株

21年3月期 773,615株

(参考)個別業績の概要

1. 22年3月期の個別業績(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

)

	売上	ം	営業利	J益	経常利	J益	当期純	利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期	27,750	29.4	1,768	89.3	1,668	92.1	916	102.2
21年3月期	21,443	9.2	934	122.4	868	187.2	453	76.0

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純 利益
	円銭	円銭
22年3月期	137.40	_
21年3月期	68.59	_

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年3月期	22,701	6,106	26.9	828.33
21年3月期	20,468	4,800	23.5	726.84

(参考) 自己資本

22年3月期 6,106百万円

21年3月期 4,800百万円

2. 23年3月期の個別業績予想(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

					(%)43	不は週別は刈	削朔、弗2四十朔	糸町州川は刈り	非平问四十别增减平 /
	売上	高	営業和	引益	経常和	刊益	当期純	利益	1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 累計期間	10,000	△13.9	400	△45.6	370	△46.0	200	△49.0	27.13
通期	22,000	△20.7	1,200	△32.2	1,120	△32.9	565	△38.3	76.64

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

①当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界的な金融危機の影響から一時的に立ち直りの動きがみられたものの、深刻な雇用情勢、企業業績の悪化、個人消費の低迷など依然として引き続き厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループは「付加価値の高い技術提案型営業」と「総コストの圧縮」を最重要課題とする従来からの営業方針を堅持することによって、さらなる営業基盤の強化に邁進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、299億21百万円(前期比30.8%増)で、その内訳は商品売上高が135億76百万円(前期比11.2%増)、完成工事高は163億45百万円(前期比53.2%増)、受注工事高は127億86百万円(前期比20.1%減)となりました。

次に部門別の売上高は以下のとおりであります。

[ファスナー事業部門]

安全対策製品であるセーフティーボルトの販売が順調に推移したほか、環境に配慮した無機系アンカーの販売 も伸び、売上高は38億14百万円(前年同期比12.0%増)となりました。

〔土木資材事業部門〕

ロックボルト、トンネル掘削・支保補助部材等の販売を積極的に展開した結果、売上高は95億55百万円(前年同期比8.3%増)となりました。

[建設事業部門]

公共工事の減少による受注環境の悪化の影響を受ながらも、当社が従来から取組んでおります技術提案型営業が実を結び、第二京阪道路関連の大型プロジェクト工事の受注の結果、売上高は165億52百万円(前年同期比55.4%増)となりました。

[営業利益·経常利益·当期純利益]

販売費及び一般管理費につきましては、43億65百万円(前年同期比7.9%増)となり、売上高の増加に伴い、営業利益は18億88百万円(前年同期比93.0%増)となりました。又、有利子負債のより一層の圧縮に努めた結果、経常利益は17億91百万円(前年同期比99.1%増)となりましたが、社債償還損などの特別損失を60百万円計上した結果、当連結会計年度の当期純利益は9億69百万円(前年同期比110.1%増)となりました。

②通期の見通し

通期の見通しにつきましては、本資料3. (6) 「会社の対処すべき課題」(添付資料7ページ参照)に記載しましたように当社を取り巻く環境は今後も厳しい状況が予想されますが、平成23年3月期の業績見通しに関しましては以下の数字を予定しております。

C 37. (-) [| He | | |

〔連結〕

売上高	237億00百万円	し前年同期比	20.8%减」
営業利益	12億60百万円	〔前年同期比	33.3%減〕
経常利益	11億80百万円	〔前年同期比	34. 1%減〕
当期純利益	6億00百万円	〔前年同期比	38. 1%減〕
〔単独〕			
売上高	220億00百万円	〔前年同期比	20.7%減〕
営業利益	12億00百万円	〔前年同期比	32.2%減〕
経常利益	11億20百万円	〔前年同期比	32. 9%減〕
当期純利益	5億65百万円	〔前年同期比	38. 3%減〕

上記の業績予想は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、市場の動向など今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

(2) 財政状態に関する分析

当連結会計年度末の総資産は235億90百万円と前連結会計年度末に比べ、24億69百万円増加しました。これは主として流動資産が23億23百万円増加したためであります。現金及び預金が13億46百万円、完成工事未収入金10億53百万円と有価証券5億円、及び受取手形もそれぞれ増加しております。負債は172億85百万円と前連結会計年度末に比べ12億53百万円増加しました。これは主として、支払手形及び工事未払金の増加によるものであります。なお、純資産は63億4百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.3ポイント増加しております。

【連結キャッシュ・フローの状況】

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ18億46百万円増加し、54億24百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動における資金は、売上債権が10億50百万円増加したものの、税金等調整前当期純利益17億52百万円 (前年同期比125.5%増)を計上し、仕入債務が25億12百万円増加したことなどにより、36億円の収入(前年同期 比298.1%増)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動における資金は、子会社株式の取得による支出などにより、2億63百万円の支出(前年同期比252.6%増)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動における資金は有利子負債の圧縮に努めたことにより、14億90百万円の支出(前年同期は4億10百万円の収入)となりました。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
自己資本比率(%)	21. 78	25. 79	23. 42	26. 73
時価ベースの自己資本比率(%)	21. 94	19. 26	17. 47	18. 30
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	_	3. 20	7. 18	1. 33
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	_	13. 59	7.46	30. 84

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

- 2. キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを利用しております。有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。
- 3. キャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオの平成19年3月期につきましては、営業キャッシュ・フローがマイナスとなりましたので記載しておりません。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主各位への安定的な配当の継続を重視することを基本とし、財務体質の一層の強化のため内部留保の充実も勘案のうえ、成果の配分を行うことを方針としております。

平成22年度の期末配当金につきましては、前年度の1株につき15円の配当から5円増額、5円記念配当とし、1株につき20円の配当を実施してまいる所存であります。

(4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、株価及び財政状況等に影響を及ぼす可能性があると考えられる事項は以下のようなものがあります。当社はこれらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生の回避又は発生した場合の対応に努め、事業活動を行っております。又、これらのリスクが発生する可能性が生じた場合には、投資家に対する積極的な情報開示を行ってまいります。

①業界の動向等

当社の事業内容は、「あと施工アンカー」や「ロックボルト」などの建設資材の販売や、道路、トンネルなどの設備工事を行っておりますが、売上高に占める官公庁からの比率は直接・間接を問わず高いため公共投資の削減などの動きや建設業界の動向の影響を受ける可能性があります。

②事業内容の見直し

当社は上記①のリスクに対応し安定した収益を確保するために付加価値の高い商品、工法の開発や市場投入及びコスト削減施策を実行することにより収益力の向上に努めております。同時に既存事業の見直しにも着手しており、これにともなう損失が発生する可能性があります。

③売上の季節変動

当社の業績は建設業界の受注形態の特性上季節的な変動があり、売上高が下期、特に第4四半期に計上される割合が高くなっております。従いまして、受注あるいは進行しているプロジェクトの状況によっては、売上計上時期がずれる可能性があり、業績に影響を与える可能性があります。

④原材料価格の高騰

昨今の鉄鋼・石油などの原材料価格の高騰につき、当社製品もこれら原材料に大きく依存しており、市況動向によっては更なる影響を受ける可能性があります。

⑤資金調達に関する重要事項(重要な財務制限事項)

当社グループの借入金には、シンジケート・ローンが含まれており、以下のような財務制限条項があり、いずれかが遵守できない場合当社は、借入契約上の全ての期限の利益を失い、当社グループの業績と財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(純資産維持)

直近決算期の連結貸借対照表に記載される純資産額の75%以上を維持する。

(純利益維持)

各年度末の決算期の連結損益計算書に記載される経常損益を2期連続赤字としない。

(有利子負債残高制限)

各決算期の連結貸借対照表に記載される有利子負債の合計額を100億円以下に維持する。

⑥減損会計の影響

当社グループが所有する固定資産のうち、来期以降将来キャッシュ・フローが充分に見込めない資産又は資産グループが新たに存在すると判定された場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を与える可能性があります。

⑦災害時のリスクについて

当社グループでは、地震を含めた防災対策を行っており、過去の災害発生時にも事業への影響を最小限に止めた実績があります。しかし、想定を超える大規模な災害が発生した場合には、停電又はその他の中断事象による影響を完全に防止又は軽減できない可能性があります。

⑧人材の確保及び育成について

新技術及び新製品の開発及び製造には、有能な技術者及び熟練技術者の確保が重要と考えております。当社グループでは、有能な技術者の確保に注力し、又、熟練技術者の育成を図っておりますが、有能な人材確保及び育成を継続できない場合、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

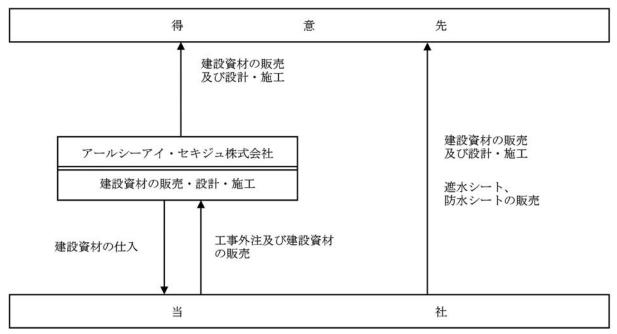
2. 企業集団の状況

当グループは、当社(株式会社ケー・エフ・シー)、連結子会社1社により構成されており、主な事業内容は、建設資材の販売・設計・施工及び遮水シート、防水シートの輸入販売・設計・施工等を行っております。

当グループの事業に係わる位置づけは、次のとおりであります。

遮水シート、防水シートの輸入販売・設計・施工… 当社は遮水シート、防水シートを仕入、販売しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 子会社はすべて連結されております。

関係会社の状況

B W Z L O W DL					
名称	住所	資本金 (千円)	重要な事業の内容	議決権の所 有(又は被 所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
アールシーアイ・セキジュ株式会社	大阪市北区	74, 000	建設資材の 販売・設 計・施工	100	工事外注、建設資材の仕入 及び販売 なお、当社所有の建物を賃 貸しております。

- (注) 1. 上記のうち特定子会社に該当するものはありません。
 - 2. 上記子会社は、有価証券届出書又は、有価証券報告書を提出しておりません。
 - 3. 上記子会社は、連結売上高に占める売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の割合が10%以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは「信用を重んじ、社会の発展と豊かな環境づくりに貢献します。」という企業理念のもと21世紀を迎え真に豊かな成熟社会にするための活力ある国土づくりに貢献できる企業集団を目指すとともに、当社グループの存立を支える株主・投資家・顧客そして地域社会の皆様のニーズに応えるために、「技術力による付加価値の創造」を経営の基本方針としております。

(2) 会社の利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題の一つと考え、安定的な配当を継続することを基本原則とするとともに、経済情勢、業界の動向、当社の業績に対応した配当を行っていく方針であります。

(3) 投資単位の引下げに関する考え方及び方針等

当社は、当社株式が適正な価格で形成されるには、投資単位引き下げによる株式の流動性の向上並びに投資家層の拡大が有効な施策であると認識しております。

当社株式の投資単位の引き下げに関しましては、業績、株価水準、出来高及び費用対効果等を慎重に考慮し、今後の対応を検討してまいりたいと考えております。

現時点におきましては、具体的な施策、時期等は未定であります。

(4) 目標とする経営指標

利益配分の基本方針に従い、安定的な配当を継続するとともに、企業価値の増大による利益還元を行うために、必要な利益水準である売上高経常利益率5%以上を目指してまいります。

(5) 中長期的な会社の経営戦略

中長期的な経営戦略としましては、低成長が続く時代にあっても、景気動向に左右されない常に安定した収益 基盤を確保するために、当グループが永年培ってまいりました技術力・営業力を結集し、社会のニーズに対応し た新商品、新工法の開発に力を入れるとともに、既存事業の活性化や固定費の圧縮に取組んでおります。又、更 なる企業競争力、企業体質の強化を目指し、下記の施策を積極的かつ継続的に推進してまいります。

i 「オンリー・ワン」企業としての技術提案型営業の強化

当社は創業以来付加価値の高い営業活動を行い今日に至っておりますが、再度「技術力によって社会貢献を果たす」という当社の原点に立ち返り、ユーザー・施主のニーズに対応した技術提案型営業を強化して他社との優位性を保ち「オンリー・ワン」企業を目指してまいります。

ii 既存事業の活性化と新商品・新工法の改良及び開発

当社は多くの施工実績を有するトンネル・道路のリニューアル工事、耐震補強工事などの今後需要が見込まれる分野に対し積極的に参入するだけでなく、新商品・新工法の普及及び既存商品・工法のさらなる改良を行っております。又、各現場からの意見を取り入れた新しいコンセプトのあと施工アンカー及び特殊ボルト・ナット類や効率的な工法を継続的に開発し、早期事業化を推進してまいります。

iii 収益基盤の改善

建設市場が縮小し受注の絶対量が減少する中、収益基盤を改善するために「量」から「質」への転換を目指してまいります。具体的には

- ・徹底したコストダウンの追及と高品質な商品を提供するために、購買部を中心とした全社規模での集中購買体制を強化してまいります。
- ・競争激化にともない低採算を余儀なくされていた一部の工事を見直し、選別受注による収益性・利益率の向上を目指してまいります。
- iv スリムな経営の推進

現在の厳しい市場環境やめまぐるしく変化する社会情勢に迅速かつ的確に対応するために、経営の効率化と スリムな経営に向け、組織と人員の最適化や固定費の削減などを継続的に行い、市場競争に耐えうるコスト競 争力を強化することによって企業体質の改善を行ってまいります。

v 連結キャッシュ・フロー経営の重視

健全な会計慣行を維持し、グループにおける透明なキャッシュ・フロー経営を重視してまいります。

(6) 会社の対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、原油・鉄鋼等の原材料コストの高騰による民間設備投資意欲の減退、また厳しい財政事情が続く中、公共工事の一段の縮小傾向が予想され、国内経済に与える懸念材料が山積され、今後も予断を許さない状況が続くものと思われます。

このような状況を踏まえ当社グループは、従来からの「付加価値の高い技術提案型営業」に加えて、営業体制の強化による積極的な営業活動を推進し民間工事・公共事業の減少に対処できる営業基盤を構築し、又、原材料コストの削減に重点を置き、安定した収益の確保と維持を目指すことにより、一層の社業発展を期するものであります。

4. 連結財務諸表 (1) 連結貸借対照表

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2, 576, 856	3, 923, 58
受取手形	3, 624, 335	3, 639, 94
売掛金	2, 534, 508	2, 533, 92
完成工事未収入金	1, 578, 285	2, 632, 16
有価証券	1, 000, 637	1, 500, 63
未成工事支出金等	1, 029, 602	684, 43
商品	1, 012, 968	767, 22
繰延税金資産	133, 075	139, 92
その他	540, 052	522, 76
貸倒引当金	△54, 575	$\triangle 45,58$
流動資産合計	13, 975, 746	16, 299, 02
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	^{**1} 2, 862, 114	*1 2, 864, 2°
減価償却累計額	$\triangle 1, 154, 478$	$\triangle 1, 210, 40$
建物及び構築物(純額)	1, 707, 635	1, 653, 80
機械装置及び運搬具	952, 148	879, 5
減価償却累計額	△883, 706	△812, 4
減損損失累計額	△7, 386	_ ,
機械装置及び運搬具(純額)	61, 055	67, 0
工具、器具及び備品	117, 734	103, 4
減価償却累計額	$\triangle 105, 745$	△83, 3
工具、器具及び備品(純額)	11, 989	
土地		20, 0 *1 4 088 2
エゼ リース資産	1, 000, 200	1, 000, 2
減価償却累計額	88, 121 △11, 788	$157, 2$ $\triangle 40, 8$
リース資産(純額)	76, 332	116, 3
有形固定資産合計	5, 945, 272	5, 945, 5
無形固定資産		
特許権	18, 880	
ソフトウエア	26, 113	25, 7
リース資産	477	3-
その他	17, 493	14, 7
無形固定資産合計	62, 964	40, 8
投資その他の資産		
投資有価証券	540, 308	772, 4
繰延税金資産	173, 795	86, 4
長期預金	300, 000	300, 0
その他	279, 945	301, 2
貸倒引当金	△173, 709	△161, 1
投資その他の資産合計	1, 120, 340	1, 298, 9
固定資産合計	7, 128, 577	7, 285, 3
繰延資産		
社債発行費	16, 048	5, 82
繰延資産合計	16, 048	5, 8
資産合計	21, 120, 372	23, 590, 19

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	5, 962, 213	7, 474, 424
買掛金	1, 014, 176	993, 575
工事未払金	766, 203	1, 790, 362
短期借入金	*1 450,000	250,000
1年内返済予定の長期借入金	*1 1,772,240	^{*1} 1, 880, 040
1年内償還予定の社債	460, 000	60,000
リース債務	19, 419	35,006
未払法人税等	180, 033	684, 278
未成工事受入金及び前受金	706, 301	391, 579
損害補償損失引当金	21, 518	_
その他	510, 585	730, 438
流動負債合計	11, 862, 688	14, 289, 704
固定負債		
社債	630, 000	240,000
長期借入金	^{*1} 3, 185, 200	*1 2, 373, 560
リース債務	61, 556	88, 034
退職給付引当金	27, 610	81, 531
その他	264, 457	212, 413
固定負債合計	4, 168, 823	2, 995, 539
負債合計	16, 031, 511	17, 285, 244
純資産の部		
株主資本		
資本金	565, 295	565, 295
資本剰余金	376, 857	376, 857
利益剰余金	4, 733, 090	5, 259, 040
自己株式	△726, 163	$\triangle 3,452$
株主資本合計	4, 949, 080	6, 197, 740
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3, 757	111, 062
繰延ヘッジ損益	$\triangle 7,454$	△3, 855
評価・換算差額等合計	△3, 697	107, 206
少数株主持分	143, 478	
純資産合計	5, 088, 860	6, 304, 947
負債純資産合計	21, 120, 372	23, 590, 191

		(単位:千円)
	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
売上高		
商品売上高	12, 209, 495	13, 576, 160
完成工事高	10, 668, 819	16, 345, 607
売上高合計	22, 878, 315	29, 921, 767
売上原価		
商品売上原価	9, 467, 067	9, 952, 576
完成工事原価	8, 387, 813	13, 715, 169
売上原価合計	17, 854, 880	23, 667, 746
商品売上総利益	2, 742, 428	3, 623, 583
完成工事総利益	2, 281, 006	2, 630, 437
売上総利益	5, 023, 434	6, 254, 021
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	477, 940	465, 430
販売手数料	52, 517	20, 504
貸倒引当金繰入額	28, 750	4, 583
役員報酬及び給料手当	1, 796, 254	1, 988, 235
退職給付費用	124, 013	222, 173
接待交際費	40, 625	49, 26
福利厚生費	394, 089	385, 81
賃借料	162, 739	168, 286
減価償却費	129, 374	137, 194
その他	*1 838, 711	^{*1} 924, 488
販売費及び一般管理費合計	4, 045, 017	4, 365, 983
営業利益	978, 417	1, 888, 03'
営業外収益		
受取利息	5, 143	3, 958
受取配当金	17, 042	12, 34
仕入割引	8, 967	4, 460
受取家賃	21, 942	21, 942
破産債権配当金	138	113
負ののれん償却額	_	15, 969
その他	22, 903	11, 57
営業外収益合計	76, 139	70, 358
営業外費用		
支払利息	121, 322	116, 742
支払手数料	9, 441	36, 108
その他	24, 033	13, 962
営業外費用合計	154, 797	166, 811
経常利益	899, 759	1, 791, 584
特別利益		
固定資産売却益	* 2 57	*2 1, 975
投資有価証券売却益	44	-,
損害補償損失引当金戻入益	_	19, 789

		(中匹・111)
	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
特別損失		
固定資産売却損	_	** 3 69
固定資産除却損	^{*4} 925	^{**4} 13, 936
投資有価証券評価損	100, 137	8, 430
損害補償損失引当金繰入額	21, 518	_
社債償還損		38, 109
特別損失合計	122, 580	60, 545
税金等調整前当期純利益	777, 281	1, 752, 811
法人税、住民税及び事業税	174, 471	769, 552
法人税等調整額	134, 237	△9, 465
法人税等合計	308, 708	760, 086
少数株主利益	7, 020	23, 211
当期純利益	461, 551	969, 513

	前連結会計年度	当連結会計年度
	前座相云前午後 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	565, 295	565, 295
当期変動額		
当期変動額合計		_
当期末残高	565, 295	565, 295
資本剰余金		
前期末残高	376, 857	376, 857
当期変動額		
当期変動額合計		
当期末残高	376, 857	376, 857
利益剰余金		
前期末残高	4, 344, 264	4, 733, 090
当期変動額		
剰余金の配当	△72, 724	△99, 066
当期純利益	461, 551	969, 513
自己株式の売却		△344, 496
当期変動額合計	388, 826	525, 950
当期末残高	4, 733, 090	5, 259, 040
自己株式		
前期末残高	△723, 019	△726, 163
当期変動額		
自己株式の取得	△3, 143	△2, 875
自己株式の売却		725, 585
当期変動額合計	△3, 143	722, 710
当期末残高	△726, 163	$\triangle 3,452$
株主資本合計		
前期末残高	4, 563, 396	4, 949, 080
当期変動額		
剰余金の配当	\triangle 72, 724	△99, 066
当期純利益	461, 551	969, 513
自己株式の取得	$\triangle 3$, 143	△2, 875
自己株式の売却		381, 089
当期変動額合計	385, 683	1, 248, 660
当期末残高	4, 949, 080	6, 197, 740

		(単位:下円)
	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	81, 852	3, 757
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△78, 095	107, 308
当期変動額合計	△78, 095	107, 305
当期末残高	3, 757	111, 062
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	△12, 380	$\triangle 7,454$
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	4, 925	3, 599
当期変動額合計	4, 925	3, 599
当期末残高	△7, 454	△3,858
評価・換算差額等合計		
前期末残高	69, 472	△3, 69′
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△73, 170	110, 90
当期変動額合計	△73, 170	110, 904
当期末残高	△3, 697	107, 200
少数株主持分		
前期末残高	136, 457	143, 478
当期変動額	,	,
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	7, 020	$\triangle 143,478$
当期変動額合計	7,020	△143, 478
当期末残高	143, 478	_
純資産合計		
前期末残高	4, 769, 327	5, 088, 860
当期変動額		
剰余金の配当	\triangle 72, 724	△99, 066
当期純利益	461, 551	969, 513
自己株式の取得	△3, 143	$\triangle 2,878$
自己株式の売却	_	381, 089
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△66, 149	△32, 573
当期変動額合計	319, 533	1, 216, 08
当期末残高	5, 088, 860	6, 304, 947

議価権対策		前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
議価償却費 133,244 151,29	営業活動によるキャッシュ・フロー		
現職給付引当金の増減額(△は減少)	税金等調整前当期純利益	777, 281	1, 752, 811
会ののれん他知額	減価償却費	133, 244	151, 291
受問引当金の増減額 (△は減少)	退職給付引当金の増減額(△は減少)	22, 262	53, 921
受転利息及び受敗配当金 △22, 186 △16, 302 支払利息 121, 322 116, 542 社債廃港損 4, 983 6, 67 社債廃港損 - 38, 10 有形固定資産院時規費 925 7, 73 無形固定資産院時規算 - 6, 20 投資有価証券売売利提益(△は益) △44 △ 投資有価証券売売利提益(△は益) 100, 137 8, 43 売上債権の増減額(△は増加) △880, 429 5991 たな削資産の増減額(△は増加) △880, 429 5991 た成工事受入金皮が耐受金の増減額(△は減少) 307, 843 △314, 72 大人債務の増減額(△は減少) 37, 843 △314, 72 大人間費税等の増減額(△は減少) 37, 843 △314, 72 大人間費税等の増減額(△は減少) 人72, 136 172, 56 その他 △22, 391 △21, 01 小計 1, 058, 786 3, 974, 99 利息及び配当金の受取額 △2, 648 16, 70 小計 1, 058, 786 3, 974, 99 対し数が配よるをの受取額 △2, 648 16, 74 労済活動によるキャッシュ・プロー 20, 000 △10, 70 投資活動によるを対しによる支出 △10, 00 △200, 00	負ののれん償却額	_	△15, 969
支払利息 121,322 116,74 社債養行費債利 4,963 6,67 有形固定資産院却相益(△は益) △57 △1,900 有形固定資産院却相益(△は益) 少44 △2 投資有価証券売却相益(△は益) △44 △2 投資有価証券売期租益(△は増加) △1,294,321 △1,060,91 たな卸管産の増減額(△は増加) △880,429 590,91 未本工事受人金及び前収金の増減額(△は地加) △880,429 590,91 未本活消費税等の増減額(△は減少) 337,848 △314,722 社入債務の増減額(△は減少) △72,136 172,56 その他 △22,391 △21,01 小計 1,088,786 3,774,00 利息及び配当金の受取額 22,648 16,70 利息及び配当金の受取額 22,648 16,70 利息及び配当金の受取額 22,648 16,70 利息の支払額 △122,192 △117,37 法人税等の支払額 △122,192 △117,37 資業活動によるキャッシュ・フロー 定期預金の利人18 △26,144 投資有価証券の取得による支出 △51,430 △45,88 貸有価証券の取得による支出 △20,000 △200,000 投資者価証券の取得による支出 △21,659 △45,88	貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△8, 979	△21, 535
社債管理博 4,983 6,07 社債管理博 一 38,190 有形固定資産売却損益(△仕益)	受取利息及び受取配当金	△22, 186	△16, 300
+ 社債償還損	支払利息	121, 322	116, 742
有形固定資産院却損益(△は益)	社債発行費償却	4, 983	6, 074
有形固定資産除却損	社債償還損	_	38, 109
無形固定資産除却損	有形固定資産売却損益(△は益)	△57	△1, 905
	有形固定資産除却損	925	7, 735
接資有価証券評価損益(△は益) 100,137 8,431 元1,050,911 元 244,321 △1,050,911 元 244,422 △14,014 △1,058,748 △144,722,148 △172,148 △172,148 △172,148 △172,148 △172,148 △172,149 △173,374 △173,374 △174,374 △174,374 △174,375 △174,374 △174,374 △174,375 △174,374 △174,375 △174,374 △174,375 △1	無形固定資産除却損	_	6, 201
売上債権の増減額(△は増加)	投資有価証券売却損益(△は益)	$\triangle 44$	$\triangle 7$
たな卸資産の増減額(△は増加)	投資有価証券評価損益(△は益)	100, 137	8, 430
未成工事受入金及び前受金の増減額(△は減少) 397,848 △314,722 仕入債務の増減額(△は減少) 1,801,328 2,512,48 未払消費税等の増減額(△は減少) △72,136 172,56 その他 △22,391 △21,01 小計 1,058,786 3,974,900 利息及び配当金の受取額 22,648 16,700 利息の支払額 △122,192 △117,375 法人税等の支払額 △54,744 △273,451 営業活動によるキャッシュ・フロー 定期預金の社民による収入 100,000 200,000 定期預金の社民による攻入 100,000 △200,000 定資有価証券の売却による攻入 87 33 投資有価証券の売却による支出 △53,430 △45,851 子会社株式の取得による支出 △53,430 △45,851 子を社株式の取得による支出 △16,623 △6,881 資付金の回収による収入 5,299 2,97 貸付金の回収による収入 5,299 2,97 貸付金の回収による支出 △26,502 財務活動によるキャッシュ・フロー 公47,746 △263,522 財務活動によるキャッシュ・フロー 公74,746 △263,522 財務活動によるキャッシュ・フロー 公74,746 △260,502 財債人のの他 △1,623,99	売上債権の増減額 (△は増加)	△1, 294, 321	$\triangle 1,050,915$
仕入債務の増減額(△は減少) 1,801,328 2,512,48 未払消費税等の増減額(△は減少) △72,136 172,56° その他 △22,391 △21,01 小計 1,058,7766 3,974,900 利息の支払額 22,648 16,703 送人税等の支払額 △54,744 △273,45 営業活動によるキャッシュ・フロー 904,498 3,600,78 投資活動によるキャッシュ・フロー と期預金の村長による収入 100,000 200,000 定期預金の村人による支収入 100,000 △200,000 投資有価証券の取得による支出 △100,000 △200,000 投資有価証券の取得による支出 △53,430 △45,856 子会社株式の取得による支出 △53,430 △45,856 子会社株式の取得による支出 △16,659 △45,54 無形固定資産の取得による支出 △21,659 △45,54 無形固定資産の取得による支出 △10,623 △6,88 貸付金の回収による収入 5,299 2,97 受付けによる支出 - △20,500 その他 5,421 - 生の他 5,421 - 大変計 △230,000 △200,000 長期借入金の海湾による支出 △1,607,460 △1,853,84 社債の発行による支出 △460,000 △1,623,99 <t< td=""><td>たな卸資産の増減額 (△は増加)</td><td>△880, 429</td><td>590, 910</td></t<>	たな卸資産の増減額 (△は増加)	△880, 429	590, 910
未払消費税等の増減額(△は減少)	未成工事受入金及び前受金の増減額 (△は減少)	397, 848	△314, 722
その他 △22,391 △21,01 小計 1,058,786 3,974,900 利息及び配当金の受取額 22,648 16,70 利息の支払額 △122,192 △117,37 法人税等の支払額 △54,744 △273,45 営業活動によるキャッシュ・フロー 904,498 3,600,78 投資活動によるキャッシュ・フロー 定期預金の投戸による収入 100,000 △200,000 投資有価証券の売却による収入 87 33 子会社株式の取得による支出 △53,430 △46,854 子会社株式の取得による支出 △21,659 △45,54 無形固定資産の売却による支出 △21,659 △46,84 資付金の回収による収入 5,299 2,97 貸付けによる支出 — △20,500 その他 5,299 2,97 貸付けによる支出 — △274,746 △263,62 財務活動によるキャッシュ・フロー △74,746 △263,62 財務活動によるキャッシュ・フロー △74,746 △263,62 財務活動によるすセッシュ・フロー △1,607,460 △1,853,84 社債の発行による収入 2,400,000 1,150,000 長期借入金の返済による支出 △1,607,460 △1,853,84 社債の管運による支出 △460,000 △1,623,99 自己株式の売却による攻出 △20,000	仕入債務の増減額(△は減少)	1, 801, 328	2, 512, 481
小計 利息及び配当金の受取額	未払消費税等の増減額(△は減少)	△72, 136	172, 567
利息及び配当金の受取額 22,648 16,700 利息の支払額	その他	△22, 391	△21, 013
利息の支払額	小計	1, 058, 786	3, 974, 906
法人税等の支払額 △54,744 △273,456 営業活動によるキャッシュ・フロー 904,498 3,600,786 投資活動によるキャッシュ・フロー 100,000 200,000 定期預金の払戻による収入 100,000 △200,000 投資有価証券の売却による収入 87 33 投資有価証券の取得による支出 △53,430 △45,856 子会社株式の取得による支出 - △150,720 有形固定資産の売却による収入 158 2,956 有形固定資産の取得による支出 △21,659 △45,544 無形固定資産の取得による支出 △10,623 △6,886 貸付金の回収による収入 5,299 2,976 貸付けによる支出 – △20,500 その他 5,421 – 投資活動によるキャッシュ・フロー 近れ4,746 △263,527 財務活動によるキャッシュ・フロー 近期借入金の純増減額 (△は減少) △230,000 △200,000 長期借入金の返済による支出 △1,607,460 △1,853,844 社債の発行による支出 △460,000 △1,853,844 社債の償還による支出 △460,000 △1,623,99 自己株式の売却による支出 △3,143 – リース債務の返済による支出 △12,139 △30,406 自己株式の販得による支出 △12,139 △30,406 自己株式の販得による支出 △12,133	利息及び配当金の受取額	22, 648	16, 705
営業活動によるキャッシュ・フロー 904,498 3,600,78 投資活動によるキャッシュ・フロー 100,000 200,000 定期預金の私戻による支出 △100,000 △200,000 投資有価証券の売却による収入 87 33 投資有価証券の取得による支出 △53,430 △45,856 子会社株式の取得による支出 - △150,720 有形固定資産の売却による収入 158 2,956 有形固定資産の取得による支出 △21,659 △45,544 無形固定資産の取得による支出 △10,623 △6,88 貸付金の回収による収入 5,299 2,97 貸付けによる支出 - △20,500 その他 5,421 - 投資活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の純増減額(△は減少) △230,000 △263,52 財務活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の純増減額(△は減少) △230,000 △200,000 長期借入金の返済による支出 △1,607,460 △1,853,844 社債の発行による収入 395,285 785,622 社債の優遠による支出 △460,000 △1,623,99 自己株式の取得による支出 △3,143 - リース債務の返済による支出 △12,139 △30,405 自己株式の取得による支出 △12,139 △30,405 自己株式の取得による支出 △212,483 △98,99	利息の支払額	△122, 192	△117, 372
投資活動によるキャッシュ・フロー 定期預金の私戻による収入 100,000 200,000 定期預金の預入による支出 △100,000 △200,000 投資有価証券の売却による収入 87 33 投資有価証券の取得による支出 △53,430 △45,856 子会社株式の取得による支出 — △150,726 有形固定資産の売却による収入 158 2,95- 有形固定資産の取得による支出 △21,659 △45,54- 無形固定資産の取得による支出 △10,623 △6,886 貸付金の回収による収入 5,299 2,97- 貸付けによる支出 — △20,506 その他 5,421 — △20,506 投資活動によるキャッシュ・フロー ダ行4,746 △263,52* 財務活動によるキャッシュ・フロー ダ河4,746 △263,52* 財務活動によるキャッシュ・フロー ダ河4,746 △263,52* 財務活動によるな収入 2,400,000 △200,000 長期借入金の経増減額(△は減少) △230,000 △200,000 長期借入金の返済による支出 △1,607,460 △1,853,844 社債の発行による収入 395,285 785,62* 社債の償還による支出 △460,000 △1,623,99: 自己株式の売却による収入 935,285 785,62* 社債の償還による支出 △3,143 — 381,085 自己株式の取得による支出 △3,143 — 381,085 自己株式の取得による支出 △3,143 — 381,085 自己株式の取得による支出 △3,143 — 381,085 自己株式の取得による支出 △3,143 — 381,085	法人税等の支払額	△54, 744	△273, 458
定期預金の払戻による収入 100,000 200,000 定期預金の預入による支出 △100,000 △200,000 投資有価証券の売却による収入 87 39 投資有価証券の取得による支出 △53,430 △45,856 子会社株式の取得による支出 − △150,720 有形固定資産の売却による収入 158 2,95- 有形固定資産の取得による支出 △21,659 △45,544 無形固定資産の取得による支出 △10,623 △6,886 貸付金の回収による収入 5,299 2,970 貸付けによる支出 − △20,500 その他 5,421 − - △20,500 投資活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の純増減額(△は減少) △230,000 △263,520 財務活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の返済による支出 △1,607,460 △1,853,844 社債の発行による収入 395,285 785,62 社債の償還による支出 △460,000 △1,623,990 自己株式の売却による収入 - 381,080 自己株式の売却による収入 - 381,080 自己株式の取得による支出 △3,143 − 30,000 自己株式の取得による支出 △3,143 − 30,000 自己株式の取得による支出 △3,143 − 30,000 自己株式の取得による支出 △3,143 − 30,000 自己株式の取得による支出 △30,000 △1,623,990 自己株式の取得による支出 △30,000 △30,000 △1,623,990 △1,623,900 △1,623,990 △1,623,990 △1,623,990 △1,623,990 △1,623,990 △1,623,990 △1,623,990 △1,623,900 △1,623,900 △1,623,	営業活動によるキャッシュ・フロー	904, 498	3, 600, 780
定期預金の預入による支出 投資有価証券の売却による収入 投資有価証券の取得による支出	投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入 87 33 公45,856 子会社株式の取得による支出	定期預金の払戻による収入	100,000	200, 000
投資有価証券の取得による支出△53,430△45,85子会社株式の取得による支出-△150,72有形固定資産の売却による収入1582,95有形固定資産の取得による支出△21,659△45,54無形固定資産の取得による支出△10,623△6,88貸付金の回収による収入5,2992,97貸付けによる支出-△20,50その他5,421-投資活動によるキャッシュ・フロー△74,746△263,52財務活動によるキャッシュ・フロー短期借入金の純増減額(△は減少)△230,000△200,000長期借入金の純増減額(△は減少)△230,000△1,150,000長期借入金の返済による収入2,400,0001,150,000長期借入金の返済による支出△1,607,460△1,853,840社債の償還による支出△460,000△1,623,99自己株式の売却による収入-381,08自己株式の取得による支出△3,143-リース債務の返済による支出△12,139△30,400配当金の支払額△72,483△98,99	定期預金の預入による支出	△100, 000	△200, 000
子会社株式の取得による支出一△150, 720有形固定資産の売却による収入1582, 95-有形固定資産の取得による支出△21, 659△45, 54-無形固定資産の取得による支出△10, 623△6, 88-貸付金の回収による収入5, 2992, 97-貸付けによる支出—△20, 500-その他5, 421—投資活動によるキャッシュ・フロー△74, 746△263, 52-財務活動によるキャッシュ・フロー短期借入金の純増減額(△は減少)△230,000△200,000-長期借入允による収入2, 400,0001, 150,000-長期借入金の返済による支出△1, 607, 460△1, 853, 84-社債の発行による収入395, 285785, 62-社債の償還による支出△460,000△1, 623, 99-自己株式の売却による収入—381,08-自己株式の取得による支出△3, 143—リース債務の返済による支出△12, 139△30, 409-配当金の支払額△72, 483△98,99-	投資有価証券の売却による収入	87	39
有形固定資産の売却による収入 158 2,95 有形固定資産の取得による支出 △21,659 △45,54 無形固定資産の取得による支出 △10,623 △6,886 貸付金の回収による収入 5,299 2,97- 貸付けによる支出 — △20,500 その他 5,421 — 投資活動によるキャッシュ・フロー 毎期借入金の純増減額 (△は減少) △230,000 △200,000 長期借入金の純増減額 (△は減少) △230,000 △200,000 長期借入金の返済による収入 2,400,000 1,150,000 長期借入金の返済による支出 △1,607,460 △1,853,84 社債の発行による収入 395,285 785,62* 社債の償還による支出 △460,000 △1,623,99* 自己株式の売却による収入 — 381,08* 自己株式の取得による支出 △3,143 — リース債務の返済による支出 △12,139 △30,409 配当金の支払額 △72,483 △98,998	投資有価証券の取得による支出	△53, 430	$\triangle 45,850$
有形固定資産の取得による支出	子会社株式の取得による支出	_	$\triangle 150,720$
無形固定資産の取得による支出	有形固定資産の売却による収入	158	2, 954
貸付金の回収による収入5,2992,97貸付けによる支出—△20,500その他5,421—投資活動によるキャッシュ・フロー△74,746△263,52′財務活動によるキャッシュ・フロー短期借入金の純増減額(△は減少)△230,000△200,000長期借入れによる収入2,400,0001,150,000長期借入金の返済による支出△1,607,460△1,853,840社債の発行による収入395,285785,62′社債の償還による支出△460,000△1,623,99′自己株式の売却による収入—381,08′自己株式の取得による支出△3,143—リース債務の返済による支出△31,143—配当金の支払額△72,483△98,99′	有形固定資産の取得による支出	△21, 659	$\triangle 45,544$
貸付けによる支出-△20,500その他5,421-投資活動によるキャッシュ・フロー△74,746△263,522財務活動によるキャッシュ・フロー短期借入金の純増減額(△は減少) 長期借入金の純増減額(△は減少) 長期借入金の返済による支出 社債の発行による収入 社債の発行による収入 社債の償還による支出 は債の償還による支出 自己株式の売却による収入 自己株式の取得による支出 リース債務の返済による支出 自己株式の取得による支出 して入債務の返済による支出 知り一ス債務の返済による支出 公30,409 金30,409 金30,409 配当金の支払額ー△20,500 人2,400,000 人1,523,993 人35,285 人460,000 人381,089 人30,409 人30,409 公30,409	無形固定資産の取得による支出	△10, 623	△6, 880
その他5,421一投資活動によるキャッシュ・フロー△74,746△263,52°財務活動によるキャッシュ・フロー短期借入金の純増減額(△は減少)△230,000△200,000長期借入れによる収入2,400,0001,150,000長期借入金の返済による支出△1,607,460△1,853,840社債の発行による収入395,285785,62°社債の償還による支出△460,000△1,623,99°自己株式の売却による収入—381,08°自己株式の取得による支出△3,143—リース債務の返済による支出△12,139△30,40°配当金の支払額△72,483△98,99°		5, 299	2, 974
投資活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の純増減額(△は減少)	貸付けによる支出	_	△20, 500
財務活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の純増減額 (△は減少)	その他	5, 421	_
短期借入金の純増減額(△は減少)	投資活動によるキャッシュ・フロー	△74, 746	$\triangle 263,527$
長期借入れによる収入2,400,0001,150,000長期借入金の返済による支出△1,607,460△1,853,840社債の発行による収入395,285785,622社債の償還による支出△460,000△1,623,993自己株式の売却による収入-381,083自己株式の取得による支出△3,143-リース債務の返済による支出△12,139△30,403配当金の支払額△72,483△98,993	財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出△1,607,460△1,853,840社債の発行による収入395,285785,627社債の償還による支出△460,000△1,623,993自己株式の売却による収入-381,083自己株式の取得による支出△3,143-リース債務の返済による支出△12,139△30,403配当金の支払額△72,483△98,995	短期借入金の純増減額 (△は減少)	△230, 000	△200, 000
社債の発行による収入395, 285785, 62社債の償還による支出△460,000△1,623,99自己株式の売却による収入-381,08自己株式の取得による支出△3,143-リース債務の返済による支出△12,139△30,40配当金の支払額△72,483△98,99	長期借入れによる収入	2, 400, 000	1, 150, 000
社債の償還による支出△460,000△1,623,995自己株式の売却による収入-381,085自己株式の取得による支出△3,143-リース債務の返済による支出△12,139△30,405配当金の支払額△72,483△98,995	長期借入金の返済による支出	$\triangle 1,607,460$	$\triangle 1,853,840$
自己株式の売却による収入 - 381,089 自己株式の取得による支出 △3,143 - リース債務の返済による支出 △12,139 △30,409 配当金の支払額 △72,483 △98,998	社債の発行による収入	395, 285	785, 627
自己株式の取得による支出△3,143-リース債務の返済による支出△12,139△30,409配当金の支払額△72,483△98,998		△460, 000	$\triangle 1,623,992$
リース債務の返済による支出 △12,139 △30,409 配当金の支払額 △72,483 △98,998	自己株式の売却による収入	_	381, 089
配当金の支払額		△3, 143	_
	リース債務の返済による支出	△12, 139	△30, 409
財務活動によるキャッシュ・フロー 410,059 <u>△1,490,52</u>	配当金の支払額	△72, 483	△98, 998
	財務活動によるキャッシュ・フロー	410, 059	$\triangle 1, 490, 523$

(㈱ケー・エフ・シー(3420) 平成22年3月期決算短信

	(株)ケー・エフ・シー(342	20) 平成22年3月期決算短信 (単位:千円)
	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1, 239, 810	1, 846, 729
現金及び現金同等物の期首残高	2, 337, 683	3, 577, 494
現金及び現金同等物の期末残高	* 3,577,494	* 5, 424, 224

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

連結財務諸表作成のための基本となる	里安/() 争	
項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	子会社はすべて連結されておりま	同左
	す。 当該連結子会社は、アールシーア イ・セキジュ株式会社の1社でありま す。	
2. 持分法の適用に関する事項	持分法適用の非連結子会社及び関連 会社はありません。	同左
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	すべての連結子会社の事業年度の末 日は、連結決算日と一致しておりま す。	同左
4. 会計処理基準に関する事項		
(1) 重要な資産の評価基準及び評価	有価証券	有価証券
方法	その他有価証券	その他有価証券
	時価のあるもの	時価のあるもの
	期末日の市場価格等に基づく時	同左
	価法(評価差額は全部純資産直入	
	法により処理し、売却原価は移動	
	平均法により算定)	
	時価のないもの	時価のないもの
	移動平均法による原価法	同左
	デリバティブ	デリバティブ
	時価法	同左
	たな卸資産	たな卸資産
	未成工事支出金	未成工事支出金
	個別法による原価法	同左
	その他たな卸資産	その他たな卸資産
	主として移動平均法による原価法	同左
	(貸借対照表価額は収益性の低下に	
	基づく簿価切下げの方法により算	
	定)	
	(会計方針の変更)	
	通常の販売目的で保有するたな卸	
	資産については、従来、主として移	
	動平均法による原価法によっており	
	ましたが、当連結会計年度より「棚	
	卸資産の評価に関する会計基準」	
	(企業会計基準第9号 平成18年7	
	月5日)が適用されたことに伴い、	
	主として移動平均法による原価法	
	(貸借対照表価額については収益性	
	の低下に基づく簿価切下げの方法)	
	により算定しております。	
	これによる損益に与える影響は軽微	
	であります。	

	<u>(株)ケー・エフ・</u>	シー(3420) 平成22年3月期決算短信
項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(2) 重要な減価償却資産の減価償却	有形固定資産 (リース資産を除く)	有形固定資産(リース資産を除く)
の方法	建物(附属設備を除く)	建物(附属設備を除く)
	定額法	同左
	その他の有形固定資産	その他の有形固定資産
	定率法	同左
	なお、主な耐用年数は次のとおり	
	であります。	
	建物及び構築物 3年~50年	
	機械装置及び運搬具2年~13年	
	(追加情報)	
	機械装置の耐用年数について、平	
	成20年度法人税法の改正を契機とし	
	て見直しを行い、従来採用していた	
	7~12年の耐用年数を6~10年に変	
	更しております。	
	これによる営業利益、経常利益お	
	よび税金等調整前当期純利益に与え	
	る影響は軽微であります。	
	無形固定資産(リース資産を除く)	無形固定資産(リース資産を除く)
	自社利用のソフトウエア	自社利用のソフトウエア
	社内における見込利用可能期間	同左
	(5年)に基づく定額法	
	その他の無形固定資産	その他の無形固定資産
	定額法	同左
	リース資産	リース資産
	リース期間を耐用年数とし、残存価	同左
	額を零とする定額法を採用しておりま	
	す。	
	なお、所有権移転外ファイナンス・	
	リース取引のうち、リース取引開始日	
	が平成20年3月31日以前のリース取引	
	については、通常の賃貸借取引に係る	
	方法に準じた会計処理によっておりま	
	す。	
(3) 重要な繰延資産の処理方法	^。 社債発行費	社債発行費
	社債の償還までの期間にわたり定額	同左
	法により償却しております。	1.47T
	161-57 KM C (40 / 5 7 0	<u> </u>

	<u>, (株)ケー・エフ・</u>	シー(3420) 平成22年3月期決算短信
項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(4) 重要な引当金の計上基準	貸倒 一般情報 一個	貸倒引当金 同左 同左 同左 同左 同左 同左 同左 同左 同左 一
		る影響はありません。

	<u>(株)ケー・エフ・</u>	_シー(3420) 平成22年3月期決算短信
項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(5) 重要な外貨建の資産又は負債の	外貨建金銭債権債務は、連結決算	同左
本邦通貨への換算の基準	日の直物為替相場により円貨に換算	
	し、換算差額は損益として処理して	
	おります。	
(6) 重要なヘッジ会計の方法	ヘッジ会計の方法	ヘッジ会計の方法
	主として繰延ヘッジ処理を採用し	同左
	ております。なお、為替予約取引に	,
	ついては、振当処理の要件を満たし	
	ている場合は振当処理を採用してお	
	り、金利スワップ取引については、	
	特例処理の要件を満たしている場合	
	は、特例処理を採用しております。	
	ヘッジ手段とヘッジ対象	ヘッジ手段とヘッジ対象
	ヘッジ手段	ヘッジ手段
	為替予約・金利スワップ取引	同左
	ヘッジ対象	ヘッジ対象
	外貨建金銭債務・変動金利の借入	同左
	金	1772
	ヘッジ方針	ヘッジ方針
	為替変動・金利変動のリスクを回	同左
	避し、安定した収益を確保するため	11-4/212
	にデリバティブ取引を行っており、	
	投機的目的とする取引は行っており	
	ません。なお、取引については各決	
	裁権限者を定めた社内規程に基づき	
	決裁をしており、リスク管理につい	
	てはすべて経理部門で行っておりま	
	す。	
	9。 ヘッジ有効性評価の方法	 ヘッジ有効性評価の方法
	ペッジ 有効性評価の方法 ペッジ開始時から有効性判定時点	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
	までの期間において、ヘッジ対象と	同左
	ペッジ手段の相場変動の累計を比較	
	し、両者の変動額等を基礎にして判	
	し、凹有の変動領寺を基礎にして刊 断しております。又、金利スワップ	
	取引については、特例処理の要件を	
	取引については、特例処理の要件を 満たしているものに限定することで	
	有効性の評価としております。	

	<u> </u>	シー(3420) 平成22年3月期決算短信
項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(7) 完成工事高の計上基準	完成工事高の計上基準は、工事完成基準によっておりますが、長期大型工事(工期1年以上かつ請負額1億円以上)については、工事進行基準によっております。なお、当連結会計年度の工事進行基準によった完成工事高は915,020千円、完成工事原価は820,759千円であります。	当連結会計年度といっては、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をでは、大学をできない。 (会計方針の変更) は、大学をできない。 は、大学をできないる。 は、大学をできないいる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないるいる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、大学をできないる。 は、
(8) その他連結財務諸表作成のため の重要な事項 5. 連結子会社の資産及び負債の評価	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。 該当事項はありません。	益はそれぞれ121,318千円増加しております。 消費税等の会計処理 同左 同左
に関する事項 6. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金 及び容易に換金可能であり、かつ、 価値の変動について僅少なリスクし か負わない取得日から3ヶ月以内に 償還期限の到来する短期投資からな っております。	同左

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(リース取引に関する会計基準)	
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従	
来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によってお	
りましたが、当連結会計年度より「リース取引に関する	
会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日	
(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改	
正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」	
(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日	
本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30	
日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じ	
た会計処理によっております。	
なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権	
移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き	
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によって	
おります。	
これによる営業利益、経常利益および税金等調整前当	
期純利益に与える影響はありません。	

表示方法の変更

前連結会計年度	当連結会計年度
(自 平成20年4月1日	(自 平成21年4月1日
至 平成21年3月31日)	至 平成22年3月31日)
(連結貸借対照表) 「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「その他たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品」として表示しております。なお、前連結会計年度の「その他たな卸資産」の内訳は「商品」775,651千円であります。	

注記事項

(連結貸借対照表関係)

のとおりであります。 (1) 担保に供している資産 建物及び構築物 1,535,280千円 土地 4,020,468 計 5,555,748 (2) 上記に対応する債務 短期借入金 200,000千円 1年内返済予定の長 期借入金 887,600 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントライ ンの総額 950,000千円 借入実行残高 — 差引額 950,000 3. 偶発債務	(理和其信为思衣舆馀)				
のとおりであります。 (1) 担保に供している資産 建物及び構築物 1,535,280千円 土地 4,020,468 計 5,555,748 (2) 上記に対応する債務 短期借入金 200,000千円 1年内返済予定の長 期借入金 887,600 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントライ ンの総額 950,000千円 借入実行残高 — 差引額 950,000 3. 偶発債務					
(1) 担保に供している資産 建物及び構築物 1,535,280千円 土地 4,020,468 計 5,555,748 (2) 上記に対応する債務 短期借入金 200,000千円 1 年内返済予定の長 期借入金 887,600 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントライン契約 (特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 950,000千円 借入実行残高 — 差引額 950,000 3. 偶発債務	※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次	※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次			
建物及び構築物 1,535,280千円 土地 4,020,468 計 5,555,748 (2) 上記に対応する債務 短期借入金 200,000千円 1 年内返済予定の長 期借入金 887,600 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 950,000千円 借入実行残高 950,000 建物及び構築物 1,479,744千円 土地 4,020,468 計 5,500,213 (2) 上記に対応する債務 1 年内返済予定の長 期借入金 925,800 長期借入金 1,405,000 計 2,330,800 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 1,000,000千円 と地 4,020,468 計 5,500,213 (2) 上記に対応する債務 1 年内返済予定の長 期借入金 925,800 長期借入金 1,405,000 計 2,330,800 3. 偶発債務	のとおりであります。	のとおりであります。			
土地	(1) 担保に供している資産	(1) 担保に供している資産			
計	建物及び構築物 1,535,280千円	建物及び構築物 1,479,744千円			
(2) 上記に対応する債務 短期借入金 200,000千円 1年内返済予定の長 期借入金 887,600 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントライ ンの総額 950,000千円 借入実行残高 950,000 (2) 上記に対応する債務 1年内返済予定の長 期借入金 長期借入金 1,405,000 計 2,330,800 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントライ ンの総額 1,000,000千円 グの総額 1,000,000千円 差引額 1,000,000 3. 偶発債務	土地 4,020,468	土地 4,020,468			
短期借入金 200,000千円 1 年内返済予定の長 期借入金 887,600 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントライン契約 (特定のよう)ます。 ニの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 950,000千円 借入実行残高 ー 差引額 950,000 1 1,000,000千円	計 5,555,748	計 5,500,213			
1年内返済予定の長期借入金長期借入金長期借入金長期借入金長期借入金長期借入金長期借入金長期借入金	(2) 上記に対応する債務	(2) 上記に対応する債務			
1 年内返済予定の長期借入金 長期借入金 長期借入金 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。コミットメントラインの総額 借入実行残高 一差引額 950,000 第一次のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	短期借入金 200,000千円	1年内返済予定の長			
期借入金 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。コミットメントラインの総額 借入実行残高 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。コミットメントラインの総額 1,000,000千円と初齢額 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。コミットメントライン契約(特定基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。コミットメントライン契約(特定基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。カート・フロー・フロー・フロー・フロー・フロー・フロー・フロー・フロー・フロー・フロー	1年内返済予定の長	期借入金 925,800			
計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであ ります。 コミットメントライ ンの総額 借入実行残高 一 差引額 950,000 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであ ります。 コミットメントライ ンの総額 1,000,000千円 一人実行残高 一 差引額 1,000,000 3. 偶発債務	期借入金 887,600	長期借入金 1,405,000			
計 2,808,400 2. コミットメントライン契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 950,000千円ンの総額 1,000,000千円ンの総額 1,000,000千円ンの総額 1,000,000千円 差引額 950,000 3.偶発債務 3.偶発債務	長期借入金 1,720,800	計 2,330,800			
当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 950,000千円ンの総額 950,000 950,000 950,000 3. 偶発債務	計 2,808,400				
め、取引銀行1行とコミットメントライン契約 (特定融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額	2. コミットメントライン契約	2. コミットメントライン契約			
融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 借入実行残高 差引額 950,000 高差引額 950,000 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 作入実行残高 一度入実行残高 一度分割 1,000,000 差引額 1,000,000	当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた	当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた			
当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 借入実行残高 一 差引額 950,000 当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 コミットメントラインの総額 作入実行残高 一 差引額 950,000 3.偶発債務	め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定				
ります。 コミットメントラインの総額 コミットメントラインの総額 コミットメントラインの総額 1,000,000千円 借入実行残高 一 借入実行残高 一 差引額 950,000 差引額 1,000,000	融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく	融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく			
コミットメントラインの総額 950,000千円 借入実行残高 一 差引額 950,000 コミットメントラインの総額 1,000,000千円 借入実行残高 一 差引額 1,000,000 3. 偶発債務	当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであ	当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであ			
シの総額 1,000,000千円 借入実行残高 一 差引額 950,000 差引額 1,000,000千円 差引額 1,000,000 3.偶発債務	ります。	ります。			
世入実行残高 一 差引額 950,000 差引額 1,000,000 3.偶発債務	コミットメントライ	コミットメントライ 1,000,000 チロ			
差引額 950,000 差引額 1,000,000 3.偶発債務	ンの総額 950,000 1 円	ンの総額 1,000,000 1 円			
3. 偶発債務	借入実行残高 — —	借入実行残高 —			
	差引額 950,000	差引額 1,000,000			
		3. 偶発債務			
1 TL/目 V/1員 4カ/板 1 1 '/ 1 又 プマルコ (ロ)が 1 目 4カ		社債の債務履行引受契約に係る偶発債務			
(糊ケー・エフ・シー第12回無担保社債 180,000千円		(㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債 180,000千円			
		 ㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債 50,000千円			
		㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債 100,000千円			
(糊ケー・エフ・シー第17回無担保社債 90,000千円					
		7.0 7.0			
		合計 1,080,000千円			

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
※1. 一般管理費に含まれる研究開発費	※1. 一般管理費に含まれる研究開発費
35,881千	70,675千円
※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであ	ます。 ※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。
機械装置及び運搬具 57千	機械装置及び運搬具 1,975千円
* 3.	※3. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。
	機械装置及び運搬具 69千円
※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであ	ます。 ※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。
機械装置及び運搬具 437千	建物及び構築物 1,000千円
工具、器具及び備品 487	機械装置及び運搬具 5,782
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u>工</u> 具、器具及び備品 952
	特許権 4,516
	その他 1,685
	計 13,936

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

			前連結会計年度末 株式数	当連結会計年度増 加株式数	当連結会計年度減 少株式数	当連結会計年度末 株式数
			(株)	(株)	(株)	(株)
発行済株式						
普通株式			7, 378, 050	_	_	7, 378, 050
	合計		7, 378, 050	_	_	7, 378, 050
自己株式						
普通株式		(注)	766, 700	6, 915	_	773, 615
	合計		766, 700	6, 915	_	773, 615

⁽注) 自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加6,915株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項 該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月20日 定時株主総会	普通株式	72, 724	11	平成20年3月31日	平成20年6月23日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月19日 定時株主総会	普通株式	99, 066	利益剰余金	15	平成21年3月31日	平成21年6月22日

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

			前連結会計年度末 株式数	当連結会計年度増 加株式数	当連結会計年度減 少株式数	当連結会計年度末 株式数
			(株)	(株)	(株)	(株)
発行済株式						
普通株式			7, 378, 050	_	_	7, 378, 050
	合計		7, 378, 050	_	_	7, 378, 050
自己株式						
普通株式		(注)	773, 615	5,000	773, 000	5, 615
	合計		773, 615	5, 000	773, 000	5, 615

- (注) 1. 自己株式の数の増加は、担保権の実行による増加分であります。
 - 2. 自己株式の数の減少は、売却による減少分であります。
- 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項 該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月19日 定時株主総会	普通株式	99, 066	15	平成21年3月31日	平成21年6月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月18日 定時株主総会	普通株式	147, 448	利益剰余金	20	平成22年3月31日	平成22年6月21日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)				(自 平成	告会計年度 21年4月1日 22年3月31日)
*	※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係			現金及び現金同等物の 記されている科目の金	期末残高と連結貸借対照表に掲 額との関係
	現金及び預金勘定 MMF 譲渡性預金 現金及び現金同等物	(平成21年3月31日現在) 2,576,856千円 637 1,000,000 3,577,494		現金及び預金勘定 MMF 譲渡性預金 指定金銭信託 現金及び現金同等物	(平成22年3月31日現在) 3,923,585千円 638 1,200,000 300,000 5,424,224

(リース取引関係)

前連結会計年度 当連結会計年度 (自 項目 平成20年4月1日 (自 平成21年4月1日 平成21年3月31日) 平成22年3月31日) リース物件の所有 リース資産の内容 リース資産の内容 権が借主に移転する (ア) 有形固定資産 (ア) 有形固定資産 機械装置及び運搬具、工具器具備品で と認められるもの以 同左 外のファイナンス・ あります。 リース取引 (イ) 無形固定資産 (イ)無形固定資産 ソフトウエアであります。 同左 リース資産の減価償却の方法 リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要 同左 な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方 法」に記載のとおりであります。 なお、リース取引開始日が平成20年3月31 日以前のリース取引については、通常の賃貸 借取引に係る方法に準じた会計処理によって おり、その内容は次のとおりであります。 1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累 1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累 計額相当額、減損損失累計額相当額及び期 計額相当額、減損損失累計額相当額及び期 末残高相当額 末残高相当額 減価償 減価償 取得価 取得価 期末残 期末残 却累計 却累計 額相当 高相当 額相当 高相当 額相当 額相当 額 額 額 額 貊 額 千円 千円 千円 千円 千円 千円 機械装置 機械装置 及び運搬 37, 548 14, 393 23, 154 及び運搬 37, 548 21,903 15,645 具 工具器具 工具器具 44, 347 20,078 24, 269 44, 347 29,696 14,651 備品 備品 ソフトウ ソフトウ 43,044 27, 494 15,550 39,720 32,668 7,052 エア エア 合計 124, 939 61,965 62,974 合計 121,615 84, 267 37, 348 (注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末 同左 残高が有形固定資産の期末残高等に占め る割合が低いため、支払利子込み法によ り算定しております。 2. 未経過リース料期末残高相当額等 2. 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額 未経過リース料期末残高相当額 1年内 25,625千円 1年内 20,401千円 1年超 1年超 37, 348 16,947 62,974 計 37, 348 (注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経 同左 過リース料期末残高が有形固定資産の期 末残高等に占める割合が低いため、支払 利子込み法により算定しております。

(株)ケー・エフ・シー(3420) 平成22年3月期決算短信

	(1/1)			
項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額		
	支払リース料 35,839千円	支払リース料 25,625千円		
	リース資産減損勘 定の取崩額	リース資産減損勘 定の取崩額		
	減価償却費相当額 35,839	減価償却費相当額 25,625		
	4. 減価償却費相当額の算定方法	4. 減価償却費相当額の算定方法		
	リース期間を耐用年数とし、残存価額を零	同左		
	とする定額法によっております。			

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成21年3月31日)

- 1. 売買目的有価証券 該当事項はありません。
- 2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの 該当事項はありません。
- 3. その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価 (千円)	連結貸借対照表計 上額(千円)	差額 (千円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの) 株式	100, 638	169, 741	69, 102
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの) 株式	557, 866	357, 567	△200, 299
合計	658, 505	527, 308	△131, 196

- (注) 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について100,137千円の減損処理を行っております。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額については減損処理を行っております。
 - 4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
87	44	_

5. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	連結貸借対照表計上額 (千円)	
その他有価証券		
(1) 非上場株式 (店頭販売株式を除く)	13, 000	
(2) 譲渡性預金	1, 000, 000	
(3) MMF	637	

6. その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額

	1 年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
その他有価証券				
(1) 譲渡性預金	1, 000, 000	_	_	_
合計	1, 000, 000	_	_	_

当連結会計年度(平成22年3月31日)

- 1. 売買目的有価証券 該当事項はありません。
- 2. 満期保有目的の債券 該当事項はありません。
- 3. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	640, 169	457, 057	183, 111
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	122, 752	142, 129	△19, 377
合計		762, 922	599, 187	163, 734

- (注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額9,570千円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。
- 4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	39	7	_

5. 減損処理を行った有価証券 当連結会計年度において、非上場株式について8,430千円の減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

(1) 取引の内容

為替予約取引及び金利スワップ取引を利用しております。

(2) 取引に対する取組方針、利用目的

為替リスク及び金利変動リスクを回避し、安定した収益を確保する目的で、デリバティブ取引に取組んでおります。なお、為替予約取引は将来の取引市場での為替相場の変動リスクを回避する目的で利用しており、又、金利スワップ取引は実需原則を遵守し調達コストの削減、運用資産の利回り向上のために利用しております。いずれも投機目的とするデリバティブ取引は行っておりません。なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。

ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約・金利スワップ取引

ヘッジ対象…外貨建金銭債務・変動金利の借入金

ヘッジ方針

為替変動・金利変動のリスクを回避し、安定した収益 を確保するためにデリバティブ取引を行っており、投機 的目的とする取引は行っておりません。なお、取引については各決裁権限者を定めた社内規程に基づき決裁をしており、リスク管理についてはすべて経理部門で行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。 又、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているものに限定することで有効性の評価としております。

(3) 取引に係るリスクの内容

利用している為替予約取引は、為替相場の変動による リスクを有しており、金利スワップ取引は市場金利変動 によるリスクを有しております。又、デリバティブ取引 の契約先はいずれも信用度の高い金融機関であるため、 契約先の債務不履行によるリスクはほとんど無いものと 認識しております。

(4) 取引に係るリスクの管理体制

デリバティブ取引を行うに当たっては、各決裁権限者を定めた社内規程に基づき決裁をしており、リスク管理についてはすべて経理部門で行っております。

(5) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 契約額等については、この金額自体が必ずしもデリバ ティブ取引におけるリスク量を示すものではありませ ん。 2. 取引の時価等に関する事項

当社グループが利用しているデリバティブ取引については、すべてヘッジ会計を適用しているため記載を 省略しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

- 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引 該当事項はありません。
- 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 金利関係

			当連結会計年	三度(平成22年	F3月31日)
ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法(注)1	長期借入金	金利スワップ取引 固定支払・変動受取	525, 000	175, 000	△6, 490
金利スワップの特例処理	長期借入金	金利スワップ取引 固定支払・変動受取	2, 085, 400	1, 397, 600	(注) 2

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注) 2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価の記載を省略しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、平成20年2月1日に退職一時金制度及び適格退職年金制度を廃止して、確定拠出年金制度 及び確定給付年金制度を導入致しました。

また、総合設立型の厚生年金基金制度に加入しており、当初の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算できないため、当基金への拠出額を退職給付費用として処理しております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1)制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成22年3月31日現在)
年金資産の額	63,718,367 千円	51,827,122 千円
年金財政計算上の給付債務の額	78, 684, 283	82, 178, 489
差引額	$\triangle 14,965,915$	△30, 351, 366

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度 2.3%(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) 当連結会計年度 2.4%(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の主な要因

前連結会計年度 年金財政計算上の過去勤務債務残高 16,622,250千円 当連結会計年度 年金財政計算上の過去勤務債務残高 15,964,314千円 本制度における過去勤務債務の償却費用は期間20年の元利均等償却であります。

当社グループの、当期の連結財務諸表上、特別掛金を費用処理しております。

前連結会計年度 31,658千円

当連結会計年度 32,248千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務に関する事項

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
イ. 退職給付債務	△693, 312千円	イ. 退職給付債務	△722, 158千円
口. 年金資産	463, 312	口. 年金資産	520, 060
ハ. 未積立退職給付債務 (イ+ロ)	△229, 999	ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△202, 098
ニ. 会計基準変更時差異の未処理額	132, 865	ニ. 会計基準変更時差異の未処理額	110, 721
ホ. 未認識数理計算上の差異	69, 524	ホ. 未認識数理計算上の差異	9, 845
へ. 連結貸借対照表計上額純額	△27, 610	へ. 連結貸借対照表計上額純額	<u></u> △81, 531
(ハ+ニ+ホ)	△21,010	(ハ+ニ+ホ)	△01, 991
ト. 退職給付引当金	△27, 610	ト. 退職給付引当金	△81, 531

3. 退職給付費用に関する事項

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
イ.	勤務費用	84,511千円	イ.	勤務費用	142, 161千円
口.	利息費用	12, 957	口.	利息費用	14, 054
ハ.	期待運用収益	$\triangle 17,652$	ハ.	期待運用収益	_
Ξ.	会計基準変更時差異の費用処理額	22, 144	Ξ.	会計基準変更時差異の費用処理額	22, 144
ホ.	数理計算上の差異の費用処理額	$\triangle 4,865$	ホ.	数理計算上の差異の費用処理額	12, 741
<u></u> ~.	確定拠出年金掛金	26, 920	<u>~.</u>	確定拠出年金掛金	31,072
١.	退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+	124, 013	١.	退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+	222, 173
	^)			^)	

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)		
イ. 退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準	イ. 退職給付見込額の期間配分方法 同左		
口. 割引率 2.0%	口. 割引率 同左		
ハ. 期待運用収益率 3.0%	ハ. 期待運用収益率 0%		
ニ. 数理計算上の差異の処理年数 15年	ニ. 数理計算上の差異の処理年数 11年		
(発生時の従業員の	(発生時の従業員の		
平均残存勤務期間以	平均残存勤務期間以		
内の一定の年数によ	内の一定の年数によ		
る定額法により、翌	る定額法により、翌		
連結会計年度から費	連結会計年度から費		
用処理することとし	用処理することとし		
ております。)	ております。)		
ホ. 会計基準変更時差異の処理年数 15年	ホ. 会計基準変更時差異の処理年数 同左		

(ストック・オプション等関係) 該当事項はありません。

(祝効果会計関係) 前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年 3 月31日)	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の	·	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の		
内訳		内訳		
繰延税金資産		繰延税金資産		
未払賞与	63,688千円	未払賞与	70,023千円	
未払事業税	14, 935	未払事業税	52, 872	
退職給付引当金	121, 612	退職給付引当金	123, 743	
役員退職慰労引当金	15, 009	役員退職慰労引当金	4, 449	
ゴルフ会員権	12, 255	ゴルフ会員権	12, 383	
貸倒引当金	28, 663	貸倒引当金	26, 730	
投資有価証券評価損	25, 523	投資有価証券評価損	28, 946	
減損損失	930	その他	7, 741	
その他有価証券評価差額金	34, 816	繰延税金資産小計	326, 890	
その他	33, 286	評価性引当額	$\triangle 47,831$	
繰延税金資産小計	350, 723	繰延税金資産合計	279, 058	
評価性引当額	$\triangle 43,852$	繰延税金負債		
繰延税金資産合計	306, 871	その他有価証券評価差額金	\triangle 52, 672	
		繰延税金負債合計	△52, 672	
		繰延税金資産(負債)の純額	226, 386	
繰延税金資産の純額は、連結貸借対	照表の以下の項目に	繰延税金資産の純額は、連結貸借対		
含まれております。		含まれております。		
流動資産—繰延税金資産	133,075千円	流動資産—繰延税金資産	139,922千円	
固定資産—繰延税金資産	173, 795	固定資産—繰延税金資産	86, 464	
2. 法定実効税率と税効果会計適用後	の法人税等の負担率	2. 法定実効税率と税効果会計適用後	の法人税等の負担率	
との差異の原因となった主な項目	別の内訳	との差異の原因となった主な項目	別の内訳	
法定実効税率 (調整)	40.6%	法定実効税率 (調整)	40.6%	
永久に損金に算入されない項目	4.0	永久に損金に算入されない項目	2. 5	
永久に益金に算入されない項目	△0.5	永久に益金に算入されない項目	△0.1	
評価性引当額の減少	$\triangle 5.0$	評価性引当額の減少	_	
評価性引当額の増加	0.0	評価性引当額の増加	0.2	
住民税均等割額	0.4	住民税均等割額	0.3	
その他	0.2	その他	△0.1	
税効果会計適用後の法人税等の負	39. 7	税効果会計適用後の法人税等の負	43. 4	
担率		担率		

(セグメント情報)

a. 事業の種類別セグメント情報

当社の企業集団は、各種あと施工アンカー類の販売・施工、トンネル支保材・防水シートの販売、トンネル 内装及び耐震関連工事等を主事業としてトータル的に行っております。

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

上記主事業のセグメント売上高、営業利益及び資産の額は、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメント資産の金額の合計に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

上記主事業のセグメント売上高、営業利益及び資産の額は、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメント資産の金額の合計に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

b. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメント資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメント資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

c. 海外売上高

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) 海外売上高がないため該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(関連当事者情報)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) 該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり純資産額	748円80銭	855円21銭
1株当たり当期純利益金額	69円86銭	145円36銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 金額	なお、潜在株式調整後1株当たり当期 純利益金額については、潜在株式が存 在しないため記載しておりません。	同左

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
当期純利益金額 (千円)	461, 551	969, 513
普通株主に帰属しない金額 (千円)	_	_
普通株式に係る当期純利益金額 (千円)	461, 551	969, 513
期中平均株式数 (株)	6, 606, 781	6, 669, 854

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(開示の省略)

金融商品、企業結合等、賃貸等不動産に関する注記事項については、決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略しております。

生産、受注及び販売の状況

(1) 部門別商品売上高

区分			計年度 4月1日 3月31日)		計年度 4月1日 3月31日)	増減(△)	は減)
		金額 (千円)	構成比(%)	金額 (千円)	構成比 (%)	増減額 (千円)	増減率(%)
	商品売上高	3, 128, 899		3, 276, 953		148, 053	
ファスナー事業部門	完成工事高	275, 367		537, 230		261, 862	
	計	3, 404, 267	14. 9	3, 814, 183	12.8	409, 915	12.0
	商品売上高	8, 623, 264		9, 232, 343		609, 079	
土木資材事業部門	完成工事高	198, 074		322, 773		124, 698	
	計	8, 821, 339	38.6	9, 555, 116	31.9	733, 777	8. 3
	商品売上高	457, 331		1, 066, 863		609, 532	
建設事業部門	完成工事高	10, 195, 377		15, 485, 603		5, 290, 226	
	計	10, 652, 709	46. 5	16, 552, 467	55. 3	5, 899, 758	55. 4
	商品売上高	12, 209, 495		13, 576, 160		1, 366, 664	
合計	完成工事高	10, 668, 819		16, 345, 607		5, 676, 787	
	計	22, 878, 315	100.0	29, 921, 767	100.0	7, 043, 452	30.8

(2) 工種別完成工事高

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		増減(△は減)	
	金額 (千円)	構成比(%)	金額 (千円)	構成比(%)	増減額 (千円)	増減率(%)
環境工事	1, 935, 547	18. 1	9, 701, 367	59. 3	7, 765, 820	401. 2
リフレッシュ工事	363, 914	3.4	892, 191	5. 5	528, 276	145. 2
トンネル及びその他の設備関連工事	3, 432, 228	32. 2	1, 378, 058	8.4	△2, 054, 169	△59.8
耐震関連工事	4, 150, 940	38.9	3, 723, 042	22.8	△427, 897	△10.3
その他の工事	786, 189	7. 4	650, 946	4. 0	△135, 242	△17. 2
合計	10, 668, 819	100. 0	16, 345, 607	100.0	5, 676, 787	53. 2

(3) 工種別受注工事高

		4月1日		三4月1日	増減(△)	は減)
区分	至 平成21年	三3月31日)	至 平成22年	三3月31日)		
	金額 (千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	増減額 (千円)	増減率(%)
環境工事	8, 275, 818	51.8	6, 335, 135	49. 6	△1, 940, 682	△23. 5
リフレッシュ工事	804, 992	5. 0	424, 871	3. 3	△380, 121	△47. 2
トンネル及びその他の設備関連工事	2, 808, 764	17.6	1, 423, 394	11. 1	△1, 385, 370	△49. 3
耐震関連工事	3, 457, 971	21.6	3, 447, 241	27.0	△10, 730	△0.3
その他の工事	644, 989	4.0	1, 155, 394	9. 0	510, 405	79. 1
슴計	15, 992, 536	100. 0	12, 786, 037	100.0	△3, 206, 499	△20. 1

(4) 工種別繰越工事高

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		増減(△は減)	
	金額 (千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	増減額 (千円)	増減率(%)
環境工事	7, 103, 919	83. 9	3, 737, 687	76. 2	△3, 366, 232	△47. 4
リフレッシュ工事	477, 500	5. 6	10, 180	0.2	△467, 320	△97. 9
トンネル及びその他の設備関連工事	343, 986	4. 1	389, 322	7.9	45, 335	13. 2
耐震関連工事	522, 155	6. 2	246, 354	5. 0	△275, 801	△52.8
その他の工事	19, 900	0. 2	524, 348	10. 7	504, 448	2, 534. 9
合計	8, 467, 461	100.0	4, 907, 891	100.0	△3, 559, 569	△42. 0

5. 個別財務諸表 (1)貸借対照表

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2, 371, 869	3, 208, 643
受取手形	3, 409, 561	3, 528, 319
売掛金	2, 444, 940	2, 487, 447
完成工事未収入金	1, 431, 678	2, 422, 234
有価証券	1,000,637	1, 500, 638
商品	1, 012, 968	767, 222
未成工事支出金	980, 756	683, 236
前払費用	61, 536	60, 24
繰延税金資産	128, 386	131, 419
未収入金	430, 386	433, 182
その他	46, 122	34, 586
貸倒引当金	△52, 140	△43, 56
流動資産合計	13, 266, 704	15, 213, 60
固定資産		
有形固定資産		
建物	**1 2, 692, 114	*1 2, 692, 013
減価償却累計額	△1, 031, 188	△1, 080, 70
建物(純額)	1,660,926	1, 611, 31
構築物	*1 170, 000	^{*1} 169, 85
減価償却累計額	△123, 290	△128, 24
構築物(純額)	46, 709	41, 60
機械及び装置	946, 763	850, 28
減価償却累計額	△878, 482	$\triangle 798, 510$
減損損失累計額	△7, 386	
機械及び装置(純額)	60, 894	51, 77
車両運搬具	5, 385	29, 23
減価償却累計額	$\triangle 5, 224$	$\triangle 13, 973$
車両運搬具(純額)	161	
		15, 26
工具、器具及び備品	117, 734	101, 35
減価償却累計額	△105, 745	△82, 65
工具、器具及び備品(純額)	11, 989	18, 70
土地	*1 4,088,258	*1 4, 088, 25
リース資産	88, 121	155, 74
減価償却累計額	△11, 788	△40, 320
リース資産(純額)	76, 332	115, 420
有形固定資産合計	5, 945, 272	5, 942, 332
無形固定資産		
特許権	18, 880	_
ソフトウエア	26, 113	25, 790
リース資産	477	340
その他	15, 706	14, 603
無形固定資産合計	61, 177	40, 740

	(単位:千円			
	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年 3 月31日)		
投資その他の資産				
投資有価証券	540, 308	772, 492		
関係会社株式	67, 998	218, 718		
長期貸付金	5, 200	14, 000		
破産債権・更生債権その他これらに準ずる 債権	154, 223	140, 896		
長期前払費用	1, 934	967		
繰延税金資産	165, 876	77, 845		
差入保証金	72, 018	80, 25		
長期預金	300, 000	300, 000		
その他	45, 622	55, 070		
貸倒引当金	△173, 599	△161, 169		
	1, 179, 582	1, 499, 070		
固定資産合計	7, 186, 033	7, 482, 143		
繰延資産				
社債発行費	16, 048	5, 829		
操延資産合計	16, 048	5, 829		
資産合計	20, 468, 786	22, 701, 580		
<u> </u>	20, 100, 100	22, 101, 00		
流動負債				
支払手形	5, 739, 858	6, 972, 94		
買掛金	973, 751	986, 423		
工事未払金	716, 857	1, 709, 29		
短期借入金	*1 450, 000	*1 250, 00		
1年内返済予定の長期借入金	*1 1,772,240	*1 1,880,04		
1年内償還予定の社債	460, 000	60, 00		
リース債務	19, 419	34, 69		
未払金	215, 946	237, 59		
未払費用	172, 383	205, 71		
未払法人税等	172, 583	634, 66		
未払消費税等				
未成工事受入金	690, 281	143, 89 384, 95		
前受金	16, 019	6, 62		
損害補償損失引当金	21, 518	0, 02.		
その他	90, 990	113, 79		
流動負債合計		13, 620, 64		
<u> </u>	11, 518, 800	13, 020, 04		
固定負債 社債	C20, 000	040.00		
長期借入金	630, 000 *1 3 185 200	240, 00 ¹ *1 2 373 56 ¹		
	0, 100, 200	2,010,00		
リース債務	61, 556	87, 36		
長期未払金	246, 241	203, 14		
退職給付引当金	13, 584	63, 06		
その他	13, 050	6, 99		
固定負債合計	4, 149, 632	2, 974, 123		
負債合計	15, 668, 432	16, 594, 766		

		(単位:十円)
	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	565, 295	565, 295
資本剰余金		
資本準備金	376, 857	376, 857
資本剰余金合計	376, 857	376, 857
利益剰余金		
利益準備金	141, 323	141, 323
その他利益剰余金		
別途積立金	3, 323, 000	3, 523, 000
繰越利益剰余金	1, 123, 738	1, 396, 583
利益剰余金合計	4, 588, 061	5, 060, 907
自己株式	△726, 163	△3, 452
株主資本合計	4, 804, 051	5, 999, 607
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3, 757	111, 062
繰延ヘッジ損益	<u></u>	△3, 855
評価・換算差額等合計	△3, 697	107, 206
純資産合計	4, 800, 353	6, 106, 814
負債純資産合計	20, 468, 786	22, 701, 580

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
売上高		
商品売上高	12, 070, 831	13, 433, 155
完成工事高	9, 373, 118	14, 317, 644
売上高合計	21, 443, 949	27, 750, 799
売上原価		
商品売上原価	9, 343, 224	9, 804, 621
完成工事原価	7, 429, 542	12, 089, 871
売上原価合計	16, 772, 766	21, 894, 492
商品売上総利益	2, 727, 606	3, 628, 533
完成工事総利益	1, 943, 575	2, 227, 773
売上総利益	4, 671, 182	5, 856, 307
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	477, 067	464, 612
広告宣伝費	8, 275	9, 059
販売手数料	52, 517	20, 504
貸倒引当金繰入額	37, 768	5, 234
役員報酬	160, 075	205, 821
給料及び手当	1, 420, 825	1, 603, 985
退職給付費用	110, 175	123, 384
福利厚生費	355, 200	436, 001
接待交際費	38, 413	46, 703
旅費及び交通費	207, 656	247, 827
賃借料	152, 826	155, 642
減価償却費	129, 374	134, 870
租税公課	59, 789	65, 695
その他	<u>*1 526, 628</u>	^{*1} 568, 141
販売費及び一般管理費合計	3, 736, 595	4, 087, 485
営業利益	934, 587	1, 768, 821
営業外収益		
受取利息	5, 519	4, 111
有価証券利息	_	488
受取配当金	17, 042	12, 341
仕入割引	8, 541	4, 365
受取家賃	^{*5} 28, 182	^{**5} 28, 182
破産債権配当金	28	2
その他	<u>*5</u> 29, 463	^{*5} 16, 977
営業外収益合計	88, 778	66, 470
営業外費用		
支払利息	107, 072	103, 210
社債利息	14, 250	13, 532
支払手数料	9, 441	36, 105
その他	24, 033	13, 962
営業外費用合計	154, 797	166, 811
経常利益	868, 568	1, 668, 481

	㈱ケー・エフ・シー(3420)	平成22年3月期決算短信 (単位:千円)
	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	^{*2} 57	^{*2} 1, 975
投資有価証券売却益	44	7
損害補償損失引当金戻入益		19, 789
特別利益合計	102	21, 772
特別損失		
固定資産売却損	_	* 3 69
固定資産除却損	^{*4} 925	^{**4} 12, 251
投資有価証券評価損	100, 137	8, 430
損害補償損失引当金繰入額	21, 518	_
社債償還損	<u> </u>	38, 109
特別損失合計	122, 580	58, 860
税引前当期純利益	746, 090	1, 631, 393
法人税、住民税及び事業税	172, 547	719, 935
法人税等調整額	120, 393	△4, 951
法人税等合計	292, 940	714, 984
当期純利益	453, 149	916, 408

商品売上原価明細書

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
項目	金額(千円)	金額(千円)
期首商品たな卸高	775, 651	1, 012, 968
当期商品仕入高	9, 580, 541	9, 558, 875
= +	10, 356, 192	10, 571, 843
期末商品たな卸高	1, 012, 968	767, 222
商品売上原価	9, 343, 224	9, 804, 621

完成工事原価報告書

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
項目	金額 (千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)
材料費	2, 916, 236	39. 2	6, 552, 458	54. 2
労務費	_	_	_	_
外注費	3, 653, 929	49. 2	4, 191, 576	34. 7
経費	859, 376	11.6	1, 345, 835	11. 1
(うち人件費)	(347, 254)	(4.7)	(578, 846)	(4.8)
合計	7, 429, 542	100.0	12, 089, 871	100.0

※原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算によっております。

	ᅶᆂᄴᅜᅷ	(単位:下的)
	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	565, 295	565, 295
当期変動額		
当期変動額合計		_
当期末残高	565, 295	565, 295
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	376, 857	376, 857
当期変動額		
当期変動額合計	_	_
当期末残高	376, 857	376, 857
資本剰余金合計		
前期末残高	376, 857	376, 857
当期変動額		
当期変動額合計		_
当期末残高	376, 857	376, 857
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	141, 323	141, 323
当期変動額		
当期変動額合計		_
当期末残高	141, 323	141, 323
その他利益剰余金		
別途積立金		
前期末残高	3, 323, 000	3, 323, 000
当期変動額		222 222
別途積立金の積立		200, 000
当期変動額合計		200, 000
当期末残高	3, 323, 000	3, 523, 000
繰越利益剰余金		
前期末残高	743, 313	1, 123, 738
当期変動額		
別途積立金の積立	_	△200,000
剰余金の配当	△72, 724	△99, 066
当期純利益	453, 149	916, 408
自己株式の売却		△344, 496
当期変動額合計	380, 424	272, 845
当期末残高	1, 123, 738	1, 396, 583
利益剰余金合計		
前期末残高	4, 207, 637	4, 588, 061
当期変動額		
剰余金の配当	△72, 724	△99, 066
当期純利益	453, 149	916, 408
自己株式の売却	-	△344, 496
当期変動額合計	380, 424	472, 845
当期末残高	4, 588, 061	5, 060, 907

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
自己株式		
前期末残高	△723 , 019	$\triangle 726, 163$
当期変動額		
自己株式の取得	△3, 143	△2, 875
自己株式の売却		725, 585
当期変動額合計		722, 710
当期末残高	△726, 163	△3, 452
株主資本合計		
前期末残高	4, 426, 769	4, 804, 051
当期変動額	_,,	_,,
剰余金の配当	\triangle 72, 724	△99, 066
当期純利益	453, 149	916, 408
自己株式の取得	$\triangle 3, 143$	△2,875
自己株式の売却	-	381, 089
当期変動額合計	377, 281	1, 195, 556
当期末残高	4, 804, 051	5, 999, 607
評価・換算差額等		-,,
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	81, 852	3, 757
当期変動額	,	,
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△78, 095	107, 305
当期変動額合計	△78, 095	107, 305
当期末残高	3, 757	111, 062
繰延ヘッジ損益		111, 002
前期末残高	△12, 380	$\triangle 7,454$
当期変動額	213,000	∠1, 101
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	4, 925	3, 599
当期変動額合計	4, 925	3, 599
当期末残高	△7, 454	△3, 855
評価・換算差額等合計	<u></u> ∠1, 101	
前期末残高	60 479	△3, 697
当期変動額	69, 472	△3,097
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△73, 170	110, 904
当期変動額合計	△73, 170	110, 904
当期末残高	△3, 697	107, 206
純資産合計		
前期末残高	4, 496, 242	4, 800, 353
当期変動額	A 70, 704	A 00, 000
剰余金の配当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当	△72, 724	△99, 066
当期純利益 自己株式の取得	453, 149	916, 408 ^ 2, 875
自己株式の取得自己株式の売却	△3, 143 —	△2, 875
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		381, 089
当期変動額合計		110, 904
	304, 111	1, 306, 460
当期末残高	4, 800, 353	6, 106, 814

継続企業の前提に関する注記 該当事項はありません。

重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価 法(評価差額は全部純資産直入法に より処理し、売却原価は移動平均法 により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2. デリバティブ等の評価基準及 び評価方法	デリバティブ 時価法	デリバティブ 同左
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 商品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定) (会計方針の変更) 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として移動平法による原価法によっておりましたが、当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。 これによる損益に与える影響は軽微	同左 (1) 商品 同左 ———————————————————————————————————
4. 固定資産の減価償却の方法	であります。 (2) 未成工事支出金 個別法による原価法 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 建物(附属設備を除く)は定額 法、その他の有形固定資産について は定率法を採用しております。な お、主な耐用年数は以下のとおりで あります。 建物及び構築物 3年~50年機械装置及び車両運搬具2年~13年	(2) 未成工事支出金 同左 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左

		・シー(3420) 平成22年3月期沢昇短信
項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
5.繰延資産の処理方法6.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準7.引当金の計上基準	(追加情報) 機械装置の耐用年数についとことで、これでは20 年度と行いにない。 (2) 無形額法ので、これでの間では、これでのいまがにのよいでで、これでのでで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、こ	(2) 無形固定資産 (リース資産を除く) 同左 (3) リース資産 同左 (4) 長期前払費用 同左 社債発行費 同左 同左
	<u> </u>	

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日	・ソー(3420) 平成22年3月期決算短信 当事業年度 (自 平成21年4月1日
	至 平成21年3月31日) (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当 事業年度末における退職給付債務及び 年金資産の見込額に基づき、当事業年 度末において発生していると認められ る額を計上しております。 なお、会計基準変更時差異 (573,860千円) については、15年に よる按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発 生時における従業員の平均残存勤務期 間以内の一定の年数(15年)による定 額法により按分した額をそれぞれ発生 の翌事業年度から費用処理することと しております。	至 平成22年3月31日) (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当 事業年度末における退職給付債務及び 年金資産の見込額に基づき、と認められ る額を計上しております。なお、につ いております。なお、につ いては、15年による按分額を費用処理 しております。数理計算上の一 と事業年度の発生時における従業員の 平均残存勤務期間以内の一定の年数 (11年)による定額法により按分した 額をそれぞれ発生の翌事業年度から費 用処理することとしております。 (会計方針の変更) 当事業年度より、「「退職給付に係 る会計基準」の一部改正(その3)」 (企業会計基準第19号 平成20年7月 31日)を適用しております。 なお、これによる営業利益、経常利 益及び税引前当期純利益に与える影響 はありません。
8. 収益及び費用の計上基準	完成工事高の計上基準は、工事完成 基準によっておりますが、長期大型工 事(工期1年以上かつ請負額1億円以 上)については、工事進行基準によっ ております。 なお、当期の工事進行基準によった 完成工事高は901,477千円、完成工事 原価は809,227千円であります。	完成工事高の計上基準は、当事業年度末までの進捗部分については、工事進行基準(工事の進捗率の見積のいては工事ののでは、工事のでは、工事のでは、工事のでは、工事では、工事では、工事では、工事では、工事では、工事では、工事では、工事

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
9. ヘッジ会計の方法	(1) ヘッジ会計の方法 主として繰延ヘッジ処理を採用して おります。なお、為替予約取引につい ては、振当処理の要件を満たしている 場合は振当処理を採用しており、金利 スワップ取引については、特例処理の 要件を満たしている場合は、特例処理 を採用しております。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約・金利スワップ取引 ヘッジ対象 外貨建金銭債務・変動金利の借入 金	(1) ヘッジ会計の方法 同左(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左
	(3) ヘッジ方針 為替変動・金利変動のリスクを回避 し、安定した収益を確保するためにデ リバティブ取引を行っており、投機的 目的とする取引は行っておりません。 なお、取引については各決裁をしており、 を定めた社内規程に基づき決裁をしております。 (4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ が手段の相場変動の累計を比較し、おります。又、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている ものに限定することで有効性の評価としております。	(3) ヘッジ方針同左(4) ヘッジ有効性評価の方法同左
10. その他財務諸表作成のための	消費税等の会計処理	消費税等の会計処理
基本となる重要な事項	税抜方式によっております。	同左

会計処理方法の変更

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、	
従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によって	
おりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会	
計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及	
で「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会	
計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会	
計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改	
正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会	
計処理によっております。	
なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権 移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き	
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によって	
おります。	
これによる営業利益、経常利益および税引前当期純利	
益に与える影響はありません。	

注記事項

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)

- ※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次 のとおりであります。
 - (1) 担保に供している資産

建物	1,488,574千円
構築物	46, 705
土地	4, 020, 468
計	5, 555, 749

(2) 上記に対応する債務 短期借入金 200,000千円 1年内返済予定の長期 887,600 借入金 長期借入金 1,720,800 計 2,808,400

2. 保証債務

次のとおり債務保証を行っております。

(1) 関係会社の仕入債務に対する保証 アールシーアイ・セキジ 4,953千円 ュ株式会社

3. コミットメントライン契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりでありま す。

コミットメントラインの

差引額

950,000千円 総額 借入実行残高

950,000

当事業年度 (平成22年3月31日)

- ※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次 のとおりであります。
 - (1) 担保に供している資産

建物 1,438,141千円 構築物 41,603 土地 4,020,468 計 5, 500, 213

(2) 上記に対応する債務

1年内返済予定の長期

借入金

925,800千円

長期借入金

1,405,000

計

2, 330, 800

2. 保証債務

次のとおり債務保証を行っております。

(1) 関係会社の仕入債務に対する保証 アールシーアイ・セキジ 8,238千円 ュ株式会社

3. コミットメントライン契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うた め、取引銀行1行とコミットメントライン契約(特定 融資枠契約)を締結しております。この契約に基づく 当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりでありま す。

コミットメントラインの

差引額

総額

1,000,000千円

1,000,000

借入実行残高

4. 偶発債務

社債の債務履行引受契約に係る偶発債務

㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債 180,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債 50,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債 100,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債 140,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債 160,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債 90,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債 180,000千円 ㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債 180,000千円

合計

1,080,000千円

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
※1. 研究開発費の総額	※1. 研究開発費の総額		
一般管理費に含まれる研究開発費	一般管理費に含まれる研究開発費		
35,881千円	70,675千円		
※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。	※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。		
機械装置 57千円	機械装置 1,975千円		
* 3.	※3.固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。		
	機械装置 69千円		
※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。	※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。		
機械装置 437千円	建物 997千円		
工具器具備品 487	構築物 3		
計 925	機械装置 5,782		
	工具器具備品 952		
	特許権 4,516		
	 計 12,251		
※5. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれて			
おります。	おります。		
(1) 営業外取引	(1) 営業外取引		
受取家賃 6,240千円	受取家賃 6,240千円		
その他(雑収入) 7,627	その他(雑収入) 6,129		

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末
普通株式 (株)	766, 700	6, 915	_	773, 615

(注) 自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加 6,915株であります。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末
普通株式 (株)	773, 615	5,000	773, 000	5, 615

- (注) 1.自己株式の数の増加は、担保権の実行による増加分であります。
 - 2. 自己株式の数の減少は、売却による減少分であります。

(リース取引関係)

前事業年度 当事業年度 (自 項目 平成20年4月1日 (自 平成21年4月1日 平成21年3月31日) 平成22年3月31日) リース物件の所有権 リース資産の内容 リース資産の内容 が借主に移転すると (ア) 有形固定資産 (ア) 有形固定資産 認められるもの以外 機械装置及び運搬具、工具器具備品で 同左 のファイナンス・リ あります。 (イ) 無形固定資産 一ス取引 (イ) 無形固定資産 ソフトウエアであります。 同左 リース資産の減価償却の方法 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却 同左 方法」に記載のとおりであります。 なお、リース取引開始日が平成20年3月31 日以前のリース取引については、通常の賃貸 借取引に係る方法に準じた会計処理によって おり、その内容は次のとおりであります。 1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累 1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累 計額相当額、減損損失累計額相当額及び期 計額相当額、減損損失累計額相当額及び期 末残高相当額 末残高相当額 減価償 減価償 取得価 取得価 期末残 期末残 却累計 却累計 高相当 額相当 額相当 高相当 額相当 額相当 額 額 額 額 額 千円 千円 千円 千円 千円 千円 機械装置 機械装置 37, 548 37, 548 21,903 15,645 14, 393 23, 154 工具器具 工具器具 44, 347 20,078 24, 269 44, 347 29,696 14,651 備品 備品 ソフトウ ソフトウ 43,044 27, 494 39, 720 32,668 15,550 7,052 エア エア 合計 62,974 合計 84, 267 124, 939 61,965 121,615 37, 348 (注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末 同左 残高が有形固定資産の期末残高等に占め る割合が低いため、支払利子込み法によ り算定しております。 2. 未経過リース料期末残高相当額等 2. 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額 未経過リース料期末残高相当額 1年内 25,625千円 1年内 20,401千円 1年超 37, 348 1年超 16,947 62,974 37, 348 同左 (注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経 過リース料期末残高が有形固定資産の期 末残高等に占める割合が低いため、支払

利子込み法により算定しております。

㈱ケー・エフ・シー(3420) 平成22年3月期決算短信

	(14) 2	・エノ・ンー(3420) 平成22年3月期冴昇短信
項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額及び減価償却費相当額支払リース料 35,839千円リース資産減損勘 この取崩額減価償却費相当額 35,839 4. 減価償却費相当額の算定方法リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額及び減価償却費相当額支払リース料 25,625千円リース資産減損勘 _ 定の取崩額減価償却費相当額 25,6254.減価償却費相当額の算定方法同左

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度(平成22年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式218,718千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

前事業年度		当事業年度	
(平成21年3月31日)		(平成22年3月31日)	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の		1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の	
内訳		内訳	
繰延税金資産		繰延税金資産	
役員退職慰労引当金	15,009千円	役員退職慰労引当金	4,449千円
退職給付引当金	113, 693	退職給付引当金	115, 124
未払事業税	14, 935	未払事業税	48, 330
未払賞与	59, 244	未払賞与	66, 469
投資有価証券評価損	25, 523	投資有価証券評価損	28, 946
ゴルフ会員権評価損	12, 255	ゴルフ会員権評価損	12, 383
貸倒引当金	28, 746	貸倒引当金	26, 762
減損損失	930	その他	7, 302
その他有価証券評価差額金	34, 816	繰延税金資産小計	309, 768
その他	32, 959	評価性引当額	△47, 831
繰延税金資産小計	338, 115	繰延税金資産合計	261, 936
評価性引当額	$\triangle 43,852$	繰延税金負債	
繰延税金資産合計	294, 263	その他有価証券評価差額金	\triangle 52, 672
-		繰延税金負債合計	△52, 672
		繰延税金資産(負債)の純額	209, 264
繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含ま		繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含ま	
れております。		れております。	
流動資産—繰延税金資産	128,386千円	流動資産—繰延税金資産	131,419千円
固定資産一繰延税金資産	165, 876	固定資産—繰延税金資産	77, 845
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率	
との差異の原因となった主な項	目別の内訳	との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	40.6%	法定実効税率	40.6%
(調整)		(調整)	
永久に損金に算入されない項目	4. 1	永久に損金に算入されない項目	2.6
永久に益金に算入されない項目	$\triangle 0.6$	永久に益金に算入されない項目	△0.1
住民税均等割等	0.3	住民税均等割等	0.2
評価性引当額の減少	$\triangle 5.0$	評価性引当額の減少	_
評価性引当額の増加	0.0	評価性引当額の増加	0. 2
その他	△0.1	その他	0.3
税効果会計適用後の法人税等の	39. 3	税効果会計適用後の法人税等の	43.8
負担率		負担率	

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり純資産額	726円84銭	828円33銭
1株当たり当期純利益金額	68円59銭	137円40銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 金額	なお、潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額につきましては、潜在株 式が存在しないため記載しておりませ ん。	同左

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
当期純利益金額 (千円)	453, 149	916, 408
普通株主に帰属しない金額 (千円)	_	_
普通株式に係る当期純利益金額 (千円)	453, 149	916, 408
期中平均株式数 (株)	6, 606, 781	6, 669, 854

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

6. その他

- (1) 役員の異動
 - ①代表者の異動 該当事項はありません。
 - ②その他の役員の異動 該当事項はありません。
- (2) その他

該当事項はありません。